

# 研究所だより

第314号  
2011年11月28日  
発行：土佐清水市教育研究所  
TEL 82-3016

## ＜中浜小学校5・6年 出張授業＞－田中 聡子（研究員） 【構成的グループエンカウンターエクササイズ】

### 1, 演習（教師）

- |           |           |
|-----------|-----------|
| ①. 2人組    | 自己紹介      |
| ②. 4人組    | 他己紹介      |
| ③. 4人組～全員 | フラフープを使って |
| ④. 2人組    | 思い出の人     |
| ⑤. 2人組    | 思い出の家     |

### 「シェアリング」（教師）

- ・説明してもらった家の様子がよく理解することができた。
- ・人の背景、または表面的なこと以外の内面がすごく見て取ることができた。
- ・以前から知り合いであったけれど、初めて知ることが多く以前に増して親近感が増したように思う。
- ・改めて知ることができた。
- ・昔のことが見て取れるようによく知ることができた。
- ・生活の色々な一面が見えた。相手の生活していた諸外国のことなど、自分の知らない世界を見ることができた。

### 2, 指導案

- ◎Q-Uの結果が良好なので児童同士ふれあうエクササイズを実施します
- ◎ゲームを通して個々違いを認め合えることを目標とします。

- \*「心の勉強」なので失敗を責めたり、命令したりして友だちを嫌な気持ちにさせたら途中でやめることを伝える。（言葉の例を挙げて分かりやすく）
- \*友だちのこと、自分のことで分かったことなどを後で発表してもらうことを伝えておく。（友だちや自分の得意なこと、良いところ）

エクササイズ	内 容 と 流 れ
自己紹介 3分	*教師と児童 ①教師と自己紹介を○×問題で行う。
後出しジャンケン 3分	*教師と児童 ①教師が出したジャンケンに後から出して勝つ。 ②後から出した自分のジャンケンに一方の手で勝つ。
クラブハンド 5分	*二人一組（教師も参加） ①自分の手を一度打ち、両手で相手の両手と一度合わせる。 ②自分の手で二度打ち、両手で相手の両手と一度合わせる。 ③自分の手で三度うち、両手で相手の両手と一度合わせる。 ④一度→二度→三度→二度→一度（慣れれば5回まで）

友だちとビンゴ 5分	*一斉 ①ビンゴ用紙を配布する。 ②一人に一つしか質問できないことを伝えておく。 ③教室を自由に歩いて友だちに質問する。あてはまればサインしてもらう。 ④ビンゴになった人は二度目の質問をしてビンゴの数を増やす。
聖徳太子ゲーム 10分	①3～4人グループになる ②グループの各自で単語のどの一文字を言うか決めて一斉に言う。 （例：ミ・ル・ク） ③他のグループで単語を当てる。
友だちクイズ 10分	①自己紹介シートに自分のことを記入する。 ②シートを先生が読んでいき、それをヒントに誰のことか当てる。 ③後で教室に掲示していいか児童の了承を得る。
ふりかえりシート 5分	
発表 3～4分	児童の許可を得て、何人かのシートを教師が読み上げる。 *内容をチェックしてネガティブな内容は読まない。

### 3, 「ふりかえりシート」より

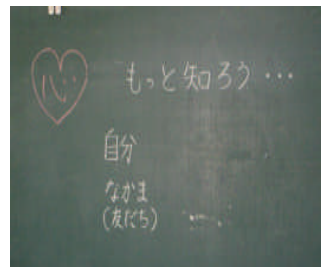
自己しょうかいをかくと、マンガというところで、みんなが手をあげてくれていたのでうれしかった。とくいなことがしらない子がたくさんいて「えっ！だれ？」と思ったけど、「あー」と分かった。たのしかったです。（6女）

一人が一つの言葉を覚えるのやってまったくきずかなかったのがくやしかったけど、楽しかった。最後のプロフィールで人の得意なことが分かってよかった。（6男）

こうきくんがビーフンシチューが好きなことがわかったし、ゆいかちゃんがさいほうがとくいということがわかった。（5男）

人をあてるときにペットをかつている人はすぐにわかったのしかったです。（6女）

みんなで協力したり、クイズをしたりして、友達のことがよく分かったのでうれしかったです。（6男）



今日、色々なゲームなどをしてすごく楽しかったです。特に最後のクイズが楽しかったです。(5女)

5・6年生の知らないところやとくいなことがしれたたのしかったです。(5女)

ビンゴでパーフェクトになってうれしかった。こうきくのすきなことは、ねることじゃないんだな?と思った。(5女)

自己紹介のカードで書いた人を当てるクイズで、みんなの得意な事や好きな物などが分かって楽しかったです。

(6女)

ゲームや自こしょうかいをして友だちのことがまあまあわかりました。手をたたくゲームで1位になれてうれしかったです。

(5女)

最後のだれかをあてるゲームで、その人のいろんなことが分かったし、あてるのが楽しかった。あといっきに言葉を言うのでみんなが分からなかったのもおもしろかった。(6女)

授業者よりー田中 聡子

高知県の現状と課題として、今年度は不登校が増加の傾向にあります。高知県でも全国でも中学1年生から増加傾向にあります。Q-Uの結果から見ても全国的には小学校の場合は満足群が多く、2回目の調査では満足群が増えているのですが、中学校では2回目とも変化がなく、むしろ非承認群が増加しています。高知県は全国と比べ結果は悪くないのですが、地域の特性として(校区の拡大など)、固定化された人間関係、集団関係があり、しんどいはずとしんどい状態が続く傾向があります。子どもの現状としても人間関係の希薄化、自己肯定感の低さ、想像力の乏しさ、共感意識の低さ、感情コントロールの弱さなど様々な課題が浮かび上がってきます。それらの問題を少しでも解決していく手段として構成的グループエンカウンターが一つの道具として有効なのではないでしょうか。

構成的グループエンカウンターの目的は、①自己理解 ②他者理解 ③自己受容 ④信頼体験 ⑤感受性の促進があります。また、構成的グループエンカウンターの良さとして、①比較的短時間で仲良くなる ②体験レベルを調整できる(心的ダメージの軽減) ③課題を学び練習をすれば誰にでも出来るようになる。ということが挙げられます。非構成のグループエンカウンターは専門性が必要ですが、構成的エンカウンターはリーダーの役目とサポートの役目は同時に行いますが、教師をしている人はリーダー性も備わっているので、少し研修を受ければすぐに出来るようになります。

学級の実態やQ-Uの結果を参考にしながら構成的グループエンカウンターを活用していただければと思います。声を掛けていただければ構成的エンカウンターの出前授業や校内研修にも協力させていただきますので宜しくお願いいたします。



## < 半日教研 >

半日教研ご苦労様でした。

授業研で問題提起されました先生方、お疲れ様でした。また、講師を招聘し、学習を深められた部会もありました。

各部会とも研究テーマに沿った討議が成されたことと思います。

### 【養護部会】

内容ー「フッ素洗口」について

- ①「フッ素の特性、毒性や効果など」  
講師：川村 則夫 先生 (歯科医師)
- ②「フッ素洗口の実際 ～実践校の取り組み～」  
講師：中越 孝子 先生 (歯科衛生士)

- ・フッ化物の基礎知識の整理
- ・フッ化物の歯科、家庭での臨床応用
- ・体内に入ったフッ素の影響
- ・多すぎると急性中毒、慢性中毒を起こす。正しい使用が大事。
- ・フッ素洗口を正しく使用すると大変効果があるが、問題点としては使い続けることが難しい。だから施設単位で実施することが望ましい。
- ・小中学校の95%が6歳臼歯のかみ合わせ面の溝であり、ブラシが届かない。そこにはフッ素洗口が届く。

### 感想

- ・フッ素洗口について詳しく知ることができ、不安が消えた。
- ・学校でフッ素洗口を実施するにあたっては、手順が必要(医師会、校長会との意思疎通)。
- ・実施している学校での具体的な取り組みがよく分かった。
- ・土佐清水市は他の市町村に比べ、う歯の発見、治療は良くできているが、罹患率が高い。う歯の予防が課題である。そのため、今日の研修会は参考になった。
- ・実践校の取り組みについて、具体的に示してもらえたので、手順や役割分担等がよく分かった。

## < 市教研各部会、研究協力校・グループ提出書類締め切りについて >

- 1 2月28日 部会決算書
- 1 月31日 実績報告書並びに総括教研報告書
- 2月10日 「清水の教育」原稿

\* 締め切り日厳守。尚、詳細につきましてはメールで配信しています。

